

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月15日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌北陵高等学校長 印

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

生徒一人一人の特性に応じた指導と社会に開かれた教育課程の実践。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様性に配慮した学習支援体制の確立及び学習環境の整備はおおむね達成できている。今後もICTの活用を含めた学びの保障や支援体制の構築に努めていく。 地域の教育力を活用した知的好奇心の喚起、外部関係者を活用した探究活動の創造には課題が残った。次年度の重点課題としたい。 授業や探究活動を通して、育成を目指す9つの資質・能力を教科等横断的に身につけさせることはできている。校内研修等の充実により、教員側の指導力向上に努めていく。 指導と評価の一体化を充実させ、生徒の学習改善、教員の指導改善に繋げるPDCAサイクルの確立には課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮の必要な生徒のみならず、個々人にあった学習指導に求められる対応は多岐にわたり、ご苦勞も多いことと思いますが良い取組ができていますと感じます。 C評価になった項目（組織的な外部関係者の活用等）は理由を分析し、改善していくことが必要と感じます。 地域の教育力を活かした活動は受動的と感じます。生徒の可能性や地域の可能性を高めるためにも、生徒側（学校側）からの積極的・能動的な提案・働きかけがあると良いと思います。 「みらいの教員育成プログラム」では、とても貴重な経験ができていますと聞いています。教員の仕事ややりがいなどを高校段階から学ぶことで、教員志望者が増えていくことを期待します。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動支援委員会を毎月開催し、学年・教務Gとの連携により、配慮が必要な生徒及び長期欠席生徒への学びのサポートを実現することができた。今後も生徒の多様性に配慮した学習支援体制を充実させる。 ○組織的な外部関係者の活用には至っていないが、他校での実践例や先駆的な教員の実践事例を参考に探究活動を充実させる体制を構築する。 ○9つの資質・能力を意識した授業や探究学習の質的な向上を図るために、校内研修や教科内研修を充実させ、教員のファシリテート力の向上、生徒の可能性を最大限に引き出す指導の充実を図る。 ○カリキュラム・マネジメントの視点を活用し、生徒の振り返りや授業改善に繋がるよう指導と評価の一体化を進め、教育活動の質的向上を図る。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様性を重視した教育活動の支援の充実について、様々な特性・障がいに関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め、一人一人を多面的・総合的に理解し、生徒に対する組織的な対応ができる体制の構築に努める。 学校生活が生徒の安心できる居場所として、生徒ホールや廊下へ展示を充実させ、生徒の作品の鑑賞機会や憩いのスペースを設け、学校生活に潤いを創出することができた。 持続可能な社会の形成者の組織的・継続的な育成には課題が残った。計画的な取組を探究活動や行事等に組み込むなど、次年度の課題としたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様性の重視については、年々その必要性が高まっていると感じます。卒業後、社会に出たときに多様性を尊重する大人・社会人となっていくことを期待します。 多様性を認める居場所をつくる（奪わない）ことに学校が取り組んでくださることは地域としてとても心強く感じます。 コロナ禍により、国際交流の機会がストップしていると聞いています。社会の形成者として、国際貢献・国際交流の取組を探究活動等で導入してみてはどうか。 北陵祭にPTAとして、活動させていただき、地域の方々との交流ができ嬉しく思いました。今後も地域連携を深め、地域コミュニティの拠点としての役割も期待します。

改善方策	<p>○多様性を重視した生徒指導提要の理念を実現する生徒支援のあり方を日々の指導や校内研修を通して、充実させていく。</p> <p>○「いじめ防止基本方針」を見直し、いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめの予防・早期発見・早期支援する組織的な体制の構築に努める。また、互いを認め合える人間関係・学校風土を構築し、いじめに至る前の人間関係から支援を行う。</p> <p>○学校行事や部活動等を通して、主体的な活動を実行する機会が増加した。部局活動の全道・全国大会への出場機会の増加にも繋がっている。今後も様々な機会を通して、生徒の可能性を引き出す教育活動を推進する。</p> <p>○コロナの5類への移行に伴い、生徒が外部機関のイベントに参加する場面が増えた。今後も生徒の主体性や社会性を高める指導の充実を努める。また、学校祭の一般公開を工夫し、地域に愛される効果的な企画を検討する。</p> <p>○探究活動を充実させ、現代社会の課題を自らの問題として捉え、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことによって、持続可能な社会を創造していく学習者の育成に努める。</p>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の現状を把握し、生徒の進路希望を実現するためには、進路Gと学年団・各教科がより緊密に連携する必要がある。 ・今年度の結果をもとに「みらいの教員育成プログラム」をどう活用していくのかを検討する必要がある。プログラムの改善・充実等、進路戦略を立て、戦略的かつ柔軟に対応していく必要がある。 ・自己管理能力を育成するためには、本人の特性やパーソナリティの理解とともに、探究活動の充実が不可欠である。外部機関等と連携した自己管理能力の育成及びキャリアプランニング能力を高める指導の充実を努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試が大幅に変化する中、より早い時期からの準備が求められ、進路指導も大変なことと思います。私立大学や資格取得に対応した専門学校など、多様な進路選択・選抜方法に戸惑わないよう、今後も情報収集に努めご指導いただきたいと思ひます。 ・自己管理能力の高低は個人差も大きいと思ひます。落ちこぼれる生徒・置いて行かれる生徒がでないよう、フォローアップ体制をお願いします。 ・学年が上がるにつれて、様々な受験情報の提供を受け、取組意識が高まっていると感じます。
改善方策	<p>○生徒の現状を把握し、進路Gと学年団の連携により、戦略的かつ柔軟に対応できた。「みらいの教員育成プログラム」では当初の目的は達成した。関係機関と連携を図り、教職希望者の進路実現の支援体制を構築していく。</p> <p>○生徒の自己管理能力の育成、自立した学習者となるべく支援が必要である。個別学習課題を提供するなど、個人の特性に応じた学びのデザインを支援できる体制、それに伴う情報共有・校内研修を充実させる。</p> <p>○「進学ライブ」「大学説明会WEEK」等を通して、キャリアプランニング能力を高めることができた。今後は探究学習の経験を大学での学びへと繋げていく体制の構築に努める。</p>	
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動支援委員会の活用により、支援を必要とする生徒情報の交換・早期の支援体制の確立に繋げることができた。常に多様性社会をつくる視点を大切に教育活動の充実を努めていく。 ・避難訓練や防災教育等を通して、当事者意識を高揚し、想定を超えた危機に対して一人一人が判断し、行動できる能力の育成に努めていく必要がある。 ・熱中症対応等、危機管理マニュアルの見直し、適切に活用できる組織体制の確立を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年早々の能登の地震を機に地域との防災に関わる連携も積極的に考えていただけると幸いです。 ・風雪が強い立地に考慮した臨時休校対応等、早めの判断は勇気のいることと思ひますが、生徒の安全や健康を考え適切に判断して欲しいと思ひます。 ・過去の災害から学ぶこと、日常の様々な危険から身を守る能力を高めることは必須と考えます。機を見て指導の充実を努めて欲しい。
改善方策	<p>○日々の情報交換や教育活動支援委員会を行い、生徒支援の体制を充実させる。また、あらゆる教育活動において、生命尊重と心身の健康意識を高める指導、多様性社会をつくる視点の啓発を継続する。</p> <p>○学年団と養護教諭やスクールカウンセラーの連携を密に行い、生徒の困り感やストレス等の把握に努め、相談体制・支援体制について組織的に展開していく。</p> <p>○日常の様々な危険から身を守る能力を高めることができたが、想定を超えた危機に対して判断し、行動できる能力の育成にまで至っていない。想定外の危機に想像力を働かせ、最悪をイメージし行動できる能力の育成に努める。</p> <p>○様々な危機に対して組織的に対応するためには、平時のコミュニケーションの機会が重要である。認める・労うなど良好な関係を築く協働体制の構築に努める。</p> <p>○学校における安全教育や安全管理に努めるとともに、学校防災計画に基づき、防災リ</p>	

	テラシーの向上と快適な学習環境の実現に努める。	
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の教職員の大幅な入替、コロナ禍によるコミュニケーション機会の減少等により、学校運営上の問題点に対し、組織的に課題解決にあたる体制づくりには課題が残った。心理的安全性を確保し、働きがいのある職場・体制づくりの構築に努めていく。また、ミドルリーダーの積極的な活用等、組織的・計画的な人材育成に努め、チーム学校を推進する基盤としていく。 ・2年目となった北陵高校「ニコニコ大作戦～笑顔あふれる生徒と教職員～」の実現に向けて、生徒・教職員が様々なアイデアを出し、学校行事等で創造性溢れる取組を行うことができた。今後は地域の皆さんの笑顔やニコニコのために学校施設の新たな活用・効果的な企画を検討し実践していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の異動による現場への影響は様々な功罪があると推察いたします。目標を共有し、相互理解のもと学校課題解決に努めて欲しいと思います。 ・教職員の働きがいがあるってこそその学校だと思います。よりよい環境を築き生徒に還元していきましょう。 ・屯田地区の地域に見守られていると感じている生徒が増えているように思う。地域から選ばれる学校となり、様々な異年齢交流等を通して、幼少期からあこがれを持つような北陵高校になって欲しい。 ・保護者の立場として、子どもの様子を見て、進学して本当に良かった学校と感じています。アフターコロナでコミュニケーション機会や活動機会が増えて、さらに良くなることを期待します。
改善方策	<p>○教職員が多数入れ替わったことで、課題を共有し、共通理解のもと組織力を活かした教育活動に繋げることができていない部分があった。今後は、コミュニケーションの機会を増やし、相互理解のもと課題解決に努めていく。</p> <p>○教員が自分の経験に基づいた指導ができなくなる時代となっている。子どもたちと共に学び続ける教員集団を組織し、「予測困難な時代」を働きがい持って課題解決に取り組む体制を構築していく。</p> <p>○ニコニコ大作戦の理念を生徒・教職員が理解し、教育活動を進めることができた。今後も「進学してよかった学校」、「勤務してよかった学校」となるように協働体制を高めていく。</p>	
公表方法	学校評価書をホームページに掲載	

3 添付資料

- ・令和5年度学校評価書
- ・令和5年度学校評価に係るアンケート結果集計（教職員・生徒・保護者）